

【青】

この世界は、完璧だ。

何一つ不自由なく、満ち足りた世界。

でも、ただひとつだけ、欠けているものがある。

それが何なのか、オレはまだまだに分からない。

「兄さん、知っていますか？ 完璧の『壁』は『壁』ではないんです

よ」

「いや、それくらい知ってるから」

「下の部分は『土』ではなくて『玉』と書くんですよ」

「だから、知ってるって」

「では、『壁』とは何か、知っていますか？」

「それは……知らないな」

オレが答えると、みさおが「では、教えてさし上げましょう」

と、誇った顔をする。

「壁とは、丸い宝玉のことです。そして完璧は、傷一つない宝玉、

というのが元々の意味なんですよ」

なるほど、とオレは頷く。

傷一つない、から完璧、か。

「そんな硬い宝玉なんて言ったら、やっぱりダイヤモンドなの

か？」

オレの問いには、みさおは「さあ」と首を傾げる。

「知らないのかよ」

「仕方ありません。そこまでは本に書いてありませんでしたの  
で」

やはり、聞きかじりの知識だったらしい。

「じゃあ、次はこちらから質問しよう」

「なんなりと」

みさおが無い胸を張る。

「では、問おう。みさお、青春ってなんだ？」

「……これはまた、唐突な質問ですね」

そう言っつて、考えこんでしまう。

どうして、青春って『青』の字が入るんだろうな。

その由来が知りたい。

聞きかじりの知識で、知らないものだろうか。

しばらくして、みさおが口を開く。

「青春とは血です、汗です、涙です。古い歌にもあります、血の

汗流せ、涙を拭くな、と」

「……じゃあ、青春は体液なのか？」

「その通りです、兄さん。青春とは体液なのです。そして、青春に一番重要な体液とは、ずばりせいえ……」

「それ以上はよせっ」

最後まで言わせるのは、かろうじて止める。

真顔で、「こういふことを言い出すから恐ろしい。」

みさおは「どうして止めるんですか」と言いたげな顔で、こちらを見ている。